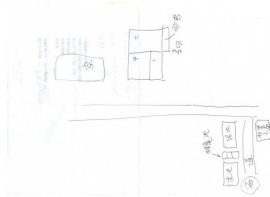


i006003	[松峯] 産業 スッポン養殖場	概要 適用
<div data-bbox="280 276 1169 874">  </div> <div data-bbox="280 882 963 922"> i006003001 スッポン養殖池前に立つ佐野大三郎氏 </div> <div data-bbox="280 938 548 1117">  </div> <div data-bbox="280 1133 436 1173"> i00600300 </div> <div data-bbox="589 938 857 1117">  </div> <div data-bbox="589 1133 745 1173"> i00600300 </div> <div data-bbox="898 938 1167 1117">  </div> <div data-bbox="898 1133 1055 1173"> i00600300 </div> <div data-bbox="280 1189 548 1367">  </div> <div data-bbox="280 1375 436 1415"> i00600300 </div> <div data-bbox="589 1189 857 1367">  </div> <div data-bbox="589 1375 745 1415"> i00600300 </div> <div data-bbox="898 1189 1167 1367">  </div> <div data-bbox="898 1375 1055 1415"> i00600300 </div>		<div data-bbox="1232 252 1317 284"> 【概要】 </div> <div data-bbox="1216 292 2092 411"> <p>松峯の磯部海岸付近には特徴的なため池が見られ、数年前までは甲羅干しをするスッポンの姿も見られた。船行川には脱走個体らしきものも見られると聞く。（繁殖の有無は未確認）</p> </div> <div data-bbox="1216 427 2092 547"> <p>すでに終わってしまっているが、屋久島で過去に唯一の事例となる、類を見ない事業であり、その痕跡は今後も長く残るであろうことから記録を残しておくべきだと思われる。</p> </div> <div data-bbox="1232 563 1317 595"> 【場所】 </div> <div data-bbox="1232 611 1854 643"> <p>松峯 磯部海岸地区 30.3289806, 130.6616917付近</p> </div> <div data-bbox="1232 699 1393 730"> 【事業の経緯】 </div> <div data-bbox="1216 746 2092 834"> <p>昭和63年8月、「自給自足」を目指して屋久島に引っ越してきて、現金収入の為始める。</p> </div> <div data-bbox="1216 850 2092 1018"> <p>特に他のすっぽん養殖業者に見学しに行ったりしたわけでは無く、「スッポンの飼い方」という一般書籍を基に事業を開始。大分の養殖業者組合より日本由来のすっぽん（ニホンスッポン）を2000匹購入、その後はその子孫だけで事業を継続した。</p> </div> <div data-bbox="1216 1034 2092 1114"> <p>平成二年ぐらいから本格的に出荷を開始し、年間でコンスタントには500匹程、多い頃は7-800匹の取り扱いがあった。</p> </div> <div data-bbox="1216 1129 2092 1209"> <p>一匹一匹網に入れて箱に詰め、鹿児島島の競り市場への出荷。高値がついて2000円程度、安いと本当に安い値だった。</p> </div> <div data-bbox="1232 1225 2042 1257"> <p>平成27-28年頃に体調不良・病気で断念するまで事業は継続された。</p> </div> <div data-bbox="1216 1273 2092 1353"> <p>令和二年の取材時現在、養殖池に一匹は生存しているようだが他にはいないと思われる。</p> </div> <div data-bbox="1232 1369 2092 1401"> <p>家の隣にコンクリートの養殖池、道向こうの海側に（パワーショベル</p> </div>



i00600300



i00600300

で掘ったら池になったという) 大きな泥池が二つ、北側の作業小屋隣にもコンクリートの池がある。

特に二つの泥池に鹿が草を食べに来た時、脱走防止の網をよく破ったらしく、逃げ出した亀は一定数いたと思われるが詳細は分からない。

スッポンの産卵にはある程度開けて深い砂場が必要で、草地ばかりだと掘ることが出来ず、草地の上に卵を産んでしまい当然孵化しない。スッポンがこの地で繁殖できるかは不明だが、この付近で今後スッポンが目撃される事があれば、この養殖所由来である可能性が高い。

スッポン養殖という事業の可能性に関しては

「料理として出すまで上手くやるならともかく、あれだけやってダメだったのだから駄目でしょう」とのことであった。

【インタビュー対象】

佐野大三郎氏

【写真】

i006003001 スッポン養殖池前に立つ佐野大三郎氏

1) i006003002 自宅横山側の養殖池。

2) i006003003 産卵のための砂場

3) i006003004 自宅横海側の養殖池 甲羅干しの通路はガードレール製

4) i006003005 海側の養殖池前の倉庫 奥に作業小屋

5) i006003006 作業小屋奥の養殖池。一匹はまだここに生存している。

6) i006003007 山側の養殖池。ホテイアオイに覆われている。

7) i006003008 佐野氏手書きの地図。